

第1回庄原市長期総合計画審議会専門部会（福祉・教育部会）  
会議録（摘録）

1. 開催日時 令和7年10月10日（金） 13:30～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁舎3階 防災対策室
3. 出席委員 上田 正之 委員                      ・ 大原 一展 委員                      ・ 林 充 委員  
今田 貴子 委員                      ・ 廣澤 伸高 委員                      ・ 東 泰治 委員  
早川 太 委員                      ・ 織田 みね子 委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席職員 企画振興部長                      足羽 幸宏  
企画振興部企画課長                      田部 伸宏  
企画課企画調整係長                      安藤 秀明  
企画課企画調整係                      山上 翔大
6. 傍聴者 1名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第1回 庄原市長期総合計画審議会専門部会

日時：令和7年10月10日（金）10：00～11：30（市民・共生部会）

13：30～15：00（福祉・教育部会）

15：30～17：00（経済・産業部会）

場所：庄原市役所 本庁舎3階 防災対策室

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 専門部会の構成等

#### 3 報告事項

#### 4 議事

- (1) 第3期の施策検討について

#### 5 その他

#### 6 閉会

## 会議経過

### 1. 開会

### 2. 専門部会の構成等

資料により事務局が説明

### 3. 報告事項

資料により事務局が説明

委員：東城の殺人事件を受けて防犯カメラを設置したとあるが、住宅が点在しているエリアでの防犯カメラ設置についての考え方を教えていただきたい。

事務局：個人の住宅への防犯カメラの設置に対する費用支援は、検討の俎上には載っていないところである。

### 4. 議事

#### (1) 第3期の施策検討について

資料により事務局が説明

委員：教育に関する施策の展開は、教育委員会が進めると思うが、教育委員会では今年から来年にかけて教育振興基本計画を作成すると聞いている。互いの連動はどのようになっているのか。先ほど具体的な施策は各課で考え、落とし込んでいくとの説明があったが、長期総合計画の取組の方向性とリンクするのか。

事務局：今回の長期総合計画では、教育および幅広い人材育成については、3本目の柱のところで施策を立てている。その施策と教育振興基本計画は基本的に同じ方向を向き、リンクしているということが前提となる。今回考える長期総合計画における次世代教育領域には、教育委員会が所管する義務教育と幼児教育の部分、教育委員会の外にはなるが高大連携などが含まれるが、基本的には教育振興基本計画と一体なものと考えている。さらに、市長が定める教育大綱と教育振興基本計画の基本構想部分はイコールになると考えている。

事務局：難しい点としては、教育委員会との進捗管理の部分である。教育振興基本計画は教育委員会で進め、長期総合計画はそこも含めた庁内全体で検討を進める

ため、言葉の使い方等、連携を密に図っていきたいと考えている

合わせて、この他にも障害者、高齢者、介護保険、インフラ等の計画があるが、長期総合計画の中で齟齬があってはならない。既存の計画についても、方向性を今一度しっかり検証し、長期総合計画に含めていきたいと思う。

委員：基本的なことになるが、庄原市では保育士の数が充足しているのか、保育所に入所したいが待たざるを得ない状況が発生しているのかどうか、この2点についてお聞きしたい。

事務局：今年度当初は、保育所への入所希望に対しては、入所希望に応えることができ、指定管理保育所を含め保育士の数も配置基準を満たしている状況であった。しかし、年度途中での未満児等の入所希望に対しては、保育士不足で迅速に対応できていない部分もあると聞いている。ただし、一時期の都会のように、多くの待機児童を生んでいるという状況にはなっていないが、できる限りで対応している状況である。

委員：現状そのように対応できているのであれば、次は、質の問題等が出てくるのではないかと考えている。

委員：庄原は地域の方々のつながりが強いと感じている。特に子どもと地域の方のつながりが深いと私は子どものころから感じている。長期総合計画の施策のトップにそのようなつながりの部分を置いていることは、とても嬉しく感じる。職員ワークショップでも意見が出ており、率直に市外にも発信していけば良いと思った。子どもたちと地域のつながりができれば、課題となっている、将来の農業等の担い手の確保にもつながっていくのではないかと感じる。庄原市として前面に自信を持って発信して良いと思う。

事務局：情報発信については、各方面からもご指摘いただいている。昨年、広報誌では子育てに特化したページを設けた。アンケートでは、移住者に聞いた設問では、「庄原市の支援制度を知らなかった」と答えた人が4割にも及んでおり、伝えたいことが市外の方に伝わっていないということになる。子育て支援に限らず、他の様々な支援について発信していかなければならないと痛感している。合わせて関係人口の方々に、庄原を知り、愛着を持ってもらうための活動については、重点的に継続して取組を進めていこうと考えている。域外の人ともしっかり手を携えるということは産業の成長にも関わるため、しっかりと取り組んでいこうと思う。

委員：スポーツ振興の障害者のスポーツ振興として、庄原市身体障害者連合会では、陸上スポーツの大会を年1回とフライングディスクの大会を開催している。このような大会で優秀な成績を上げた場合、全国大会へ出場できるという取組をしている。参考にさせていただきたいと思う。

事務局：P6にある「生きがいつくりの促進」のなかで、障害者の方が、健全に心豊かに暮らすというところがある。「安心な暮らしの充実」障害者スポーツへの支援という取組みの方向性も検討している。

全国大会への出場は、市民の希望となるところである。庄原市民の誇りになるような人の輩出は、障害者スポーツや文化的な活動でもあると思う。そのような活動の取組も方向性として示していきたいと思う。

委員：自立支援について、自立の意味をはき違えられないようにしておかないといけないと思う。本人に頑張ってもらうことが自立ではなく、本人の気持ちの前向きになることが自立であるため、そのことを示すことが必要だと思う。自助の部分は、今まで専門職や行政では言い難いことであるが、このまちが生き残る、前に向かっていくためには自助は大切であるため、自助の部分を支援することが分るような表現をするとよいと思う。

また、中山間地域では独居世帯が増えており、要介護状態になり不安を抱えて生活している方がおられる。田舎は、都市部に比べ、入所への待機期間は短く、その点は、この地域の利点であると思う。できるだけ自宅での生活を優先するが、しんどいと思ったときに、生活に不安のない入居施設があるということを施策で示せば、安心度は高まると思う。

事務局：ご指摘の内容については、関係課も認識しているところだと思う。ご意見はしっかり伝えておく。また、突き放すことが自立ではないということは、重々承知している。

委員：2030年に広島にみんなの病院ができることについて、病床の減少、工事進捗の問題もあるが、医療偏在の助けになると期待している。医療については、高齢化により受診もままならない人もいるため、介護や生活自体の支援が大事になってくると思う。

また、県でも言われている、かかりつけ医を持つことについては（全国的には56.9%）、持っていない人も現状多くいる。人間関係が希薄化しており、その影響もあると思う。自立についても、孤独であっても、孤立しないような支援が

必要である。ワンヘルス（環境、人間、動物これら全体のヘルス）も目指して  
いかなければならないと思う。

事務局：「安心して住み続けられるか」という市民アンケートの結果では、高齢者層は  
当然ながら、若い世代も医療についての関心が4割と高くなっている。医療・  
福祉領域は世代を問わず関心度が高く、住みやすさにつながるという分析を  
している。県内の取組など、広域的な視点を持ちながら、考えていきたいと思う。

委員：高齢者の自立支援について、自立という言葉の厳しきや強さに違和感がある。  
高齢者が望む自立について、要介護5の母親の場合、「家に帰りたい、地域の人  
と話をしたい」でした。社会復帰、地域復帰など、これまで自立していた高齢者  
が、自立がだんだんとできなくなり、要介護になった状態から、自立をしていく  
ことは大変ハードルが高く、厳しい状況になると思う。自立については、高齢者に  
合った捉え方にしなければならないと思う。

高齢者は、自立よりも社会復帰や地域復帰、家庭復帰を希望や願いとして  
持っているのではないかと思う。

事務局：こちらについてもまだ確定していないため、担当課ともいただいた意見の内容  
を協議しながら検討を進めていこうと思う。

委員：リカレント教育について、これを担う組織や団体は皆無な状況である。その  
ため、それを担うのは既存の教育現場や教育委員会、生涯学習課、自治振興  
センターで開催される様々な教室になると思う。自治振興センターは、生涯学習  
課から補助金をもらい、様々な教室を設けている。公民館から自治振興区に  
変わり、生涯学習がどこに位置づくのか、自治定住課とのつながりなど、施策の  
展開について、どこが担当になるのか等を考えてもらわないと、自治振興区  
としては取組が非常に難しく感じている。

事務局：リカレント教育について、日本人はなかなか社会に出ると学ばない風潮がある。  
学んだ結果が自分のキャリアや仕事で活かすチャンスがないため、定着して  
いない状況にあると思っている。

人口減少が加速するなかで、地域での生活の質を上げるためにもリカレント  
教育等にも注力していかないといけないと思っている。

県立広島大学や他の地域の機関とのつながりを模索することも必要であると思  
っているが、やはり柱となるのは生涯学習活動や自治振興区だと思っている。  
取組については関係課で縦割りにならないよう、どこが担当するのかを整理を

していきたいと思う。

委員：庄原市では出産祝い金や保育料の無償化などの支援があるが、中学校の制服代もかなり負担になるため、補助金があると貧困家庭の方は助かるのではないかとと思う。

事務局：子どもの進学等でライフステージが変わった時の出費に対して、庁内でも意見が出ている。適切に何か支援ができるように、庁内でも検討を進めたいと思う。

事務局：国も物価高騰の対策を行っているが、今後、物価が下がる見込みは低いいため、基礎自治体として、継続的に子どもを持ちたいと思えるような新たな施策や支援を継続的に考えたいと思う。

委員：ひとり暮らし巡回相談員をされており、そのなかで、住宅が点在しているところでは地域とのつながりが築きにくいと感じる。「高齢者が地域から孤立することなく…」との文言があるが、実際には孤立してしまう。役員柄、訪問をしているが、担当の地域でも2名の方が、大阪、広島に住む子どものところに引っ越した。相談員の会議では、高齢者のシェアハウスのようなものがあればという意見が出ている。夜が寂しいという声もあり、夜だけでも泊まれる施設があるとよいという意見が出た。

事務局：施設を整備することは難しいかもしれないが、高齢者の不安を解消していくことは、安心な暮らしの充実につながると思っている。庄原市でこれから先ずっと暮らし、安心が保てるという基盤を整えたいということが、今回の長期総合計画の柱の一つであるため、検討を進めていこうと思う。

委員：地域で高齢者を見守る、孤立させないためには、民生委員が重要である。現在、民生委員の改選期で、空白地域ができてくる。声掛けをしてくれる人がいなくなることは地域にとって大きなダメージになる。行政と様々なことをつなぎ、情報提供をしてくださる方がいなくなると地域としては非常に困る。

また、民生委員の選任は市が自治会に任せており、民生委員を辞める時には自治会を通さずに直接、市に申し出る仕組みになっている。この仕組みはどうか。「安心して暮らせる工夫」のなかには、民生委員の職務が重要だと思う。民生委員の空白地帯をつくらない取組を、自治会任せではなく、市の施策として入れていただかないと、この施策の実行は難しいのではないかとと思う。

事務局：なかなか民生委員になる方がいないということについて、担当課と話をしてみようと思う。

5. その他

資料により事務局が説明

6. 閉会